
沼津情報・ビジネス専門学校のカリキュラムポリシー

沼津情報・ビジネス専門学校は、卒業認定および高度専門士/専門士授与の方針（ディプロマポリシー）を踏まえ、開設する授業科目の体系化を図り、整合性を確保した教育課程を編成する。また、各授業科目については、目的、教育内容と方法、学修成果の評価基準をシラバスにより明示し、学生が主体的に学ぶことができる内容とする。さらに、各分野において企業委員からの意見を聴取する「教育課程編成委員会」を毎年 2 回以上実施し、より実践的な職業に必要な知識・技能を習得できるよう、カリキュラムの定期的な見直しを行う。

高度 IT エンジニア科のカリキュラムポリシー

高度 IT エンジニア科は、沼津情報・ビジネス専門学校の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）のもと、卒業認定・高度専門士・学士授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる人材を育成するために、「プログラミング」「ネットワーク・セキュリティ」「データベース」などの IT 技術と、「経営学」「財務」「プロジェクト管理」などのビジネス知識を習得するための授業科目を中心に、4 年間で基礎から応用、実践までを習得するため講義・演習をバランスよく配置した教育課程を体系的に編成する。

【1 年次】

情報技術者として必要な専門知識と社会人として必要な一般知識やビジネス知識を学習する。専門分野では国家資格で必要となる情報基礎科目（セキュリティ・ソフトウェア・ハードウェア・データベース・ネットワーク・アルゴリズム・IT マネジメント）を中心に、根幹となる情報処理分野の知識を確実に習得する。一般知識やビジネススキルの基礎も 1 年次から始める。いかに仕事を意識した学習ができるかが、高度 IT エンジニア科でのポイントとなる。

【2 年次】

1 年次に定着させた知識と技術を活かし、演習中心の授業を行う。中でもサーバ構築に関する実習・演習に重きを置き、業界標準のサーバ OS である Linux に触れていく。プログラム言語は Windows アプリケーション開発に必要な「C#」、また、ネットワーク業界で世界トップシェアを持つシスコシステムズ合同会社製のネットワーク機器に関するコマンド演習も行い、2 年次の総合演習としてインフラ構築の総合演習も行われる。

【3年次】

3年次は各技術の組合せを意識した開発および総合演習を数多く行っていく。Web アプリ開発・サーバ構築といったこれまで学習内容を活かした演習はもちろん、Android によるモバイルアプリの開発も始まる。また、IoT 化の基本を理解するため、電子回路やマイコンを利用した制御プログラム開発も行う。後期には連携企業から提示された課題に対して集中的に取り組み、総合技術力を養うことで技術者としての価値を高め、卒業制作に向けた土台を確実に固めていく。

【4年次】

4年次は IT 最新技術の動向調査・構築実践・知識習得など、これまでの学習を土台にハイレベルな技術に触れていく。クラウドやブロックチェーン、Python ライブラリと人工知能による AI 利活用方法の学習等がその一例である。また、SE 業務の中で発生するインシデントやリスクについても触れ、社会の一員であることを認識し、自主自律ができる技術者を目指す。集大成として各自が興味を持った技術を駆使して卒業制作を実施し、即戦力の証となる成果物を作成する。
